

第4回野洲市総合計画審議会 環境・都市計画・都市基盤整備部会 議事録要旨

●日 時

令和2年7月28日(火) 14:00～16:00

●場 所

野洲市役所本館2階 庁議室

●出席委員(委員区分毎・50音順)

1号委員:新川 達郎委員

2号委員:浅田 邦保委員、北村 真治委員、田中 康嗣委員、野口 明委員、林 かずみ委員、
山本 一郎委員

3号委員:井上 輝子委員

●事務局

左橋市民部次長、西村環境経済部次長、布施都市建設部次長、西野道路河川課課長
川尻政策調整部次長、玉川企画調整課課長、岡田企画調整課課長補佐、垂企画調整課専門員、
亀井企画調整課主事

●傍聴者

なし

1 開会

2 報告事項

第3回審議会審議事項の反映結果について
—事務局より資料説明—

◇委員からの主な意見・質問

【委員】取組方針毎に指標を設定した方がいいのではないかと前回の会議で発言させていただき、指標案を事務局に提出した。委員間で共有できるよう配布していただきたい。

→【事務局】配布させていただく。取組方針毎に指標を設定することについては、他の部会とも調整が必要であり、現在検討中である。

【委員】取組方針、主な取組毎に、対応する下位計画を載せた方が分かりやすいのではないかとの意見も述べさせていただいた。

→【事務局】現在検討中であり、全体会にて報告させていただく。

【委員】「4-1 均衡ある土地利用の推進」において、野洲市の市街化区域面積の割合を指標とするのはどうか。

→【事務局】市街化区域の拡大に取り組んでいるが、市街化区域は滋賀県が大津湖南の6市の中で決定するものであり、市だけで決められない。指標にはなじまないと考える。

3 審議事項

第2次野洲市総合計画 基本計画(素案)について
—事務局より資料説明—

4-4 防災・減災対策の強化

◇委員からの主な意見・質問

【委員】大規模な災害が起こった際に、電気やガス、水道などのライフラインを速やかに回復させることが重要であると思う。

【委員】指標に「普段から災害への備えをしている市民の割合」とあるが、アンケートを取らないと分からない指標はふさわしくないのではないか。自動的に取れるようなデータの方がよい。

【委員】野洲川の氾濫が起きたとき、どこに避難すればよいか、分かりやすく示してほしい。

→【事務局】野洲川については想定される最大降雨に対するハザードマップ、また、日野川や琵琶湖についても、現状に即したハザードマップの作成を予定している。安全度マップについても200年確率の安全度マップを作成予定である。

→【委員】大河川だけでなく、中小河川についての視点も必要である。

【委員】水害については大丈夫と思い込んでいる市民が多く、地震は皆共通に認識しているのではない。水害と地震の課題を分けた方が整理がつくように思う。また、公助には限界があり、公助でできること、自助としてしておくべきことの整理が必要ではないか。

→【事務局】水害でも地震でも、避難所へどうやって行くかや避難所の運営が共通する課題であり、研修会や訓練を実施している。課題が共通しており、まとめて記載をしている。また、自助、共助、公助の役割分担の明確化については、具体的な計画である地域防災計画に位置付けていく。

【委員】研修会や訓練に自治会の代表が出席し、自治会に持ち帰り伝えているが、体験せずに理解するのは難しい。ハザードマップで避難所を示されても実際にそこまで行けない方がたくさんおられる。

【部会長】市民一人一人の自助への学びや、自助が働きにくい高齢者等への配慮がつくせるような計画となっているか、災害時に対応を促すような計画となっているか、という意見をいただいた。

【委員】主な取組に目標があると、その目標を達成するために対応する下位計画を立てるというように上手く繋がるのではないか。

【委員】琵琶湖西岸断層帯地震による野洲市の被害予測の避難所生活者数について、受け皿は用意されているのか。

→【事務局】確保している。

→【部会長】感染症の下での避難のあり方や、避難所での生活水準の維持については、今後検討すべき課題と思われる。

【委員】施策目標の記述について、「市民の自助・共助意識を高め…」ではなく、「市民の自助・共助意識が高まり…」が良いのではないか。

4-5 道路ネットワークの整備・交通安全の推進

◇委員からの主な意見・質問

【委員】施策目標について、「だれもが交通安全を意識して行動しています。」とあるが、あるべき姿は意識しなくても安全が保たれている状態ではないか。

→【事務局】自動車に関する様々な安全装置が開発され、交通事故件数は減ってはいるが、見通しの良い交差点でも依然として事故が起きている状況を見ると、意識を高めることは重要である。

【委員】「免許の自主返納の推進」とあるが、車がないと生活できないようなところもあり、返納後も

生活が成り立つような、インフラ整備や条件整備が必要である。

→【事務局】高齢者の死亡事故が非常に多い中で、免許の自主返納は非常に効果のある施策である。自主返納された方に対してコミュニティバスの1万円分の回数券を渡しており、県下でも一番高い助成となっている。自主返納された方が家に籠らないよう、できる範囲で路線の見直し等を行っている。

→【委員】指標の「免許自主返納数」を上げるためにこういった施策がなされるのかを、計画内で明確化する必要があるのではないか。

【委員】ユニバーサル仕様の歩道等は非常に重要であり、主な取組に入れてほしい。

【委員】交通弱者には子どもも含まれる。通学時間に交差点にたくさんの子どもの子どもが並んでいるが、歩道橋の設置は難しいのか。

→【事務局】設置には相当な費用がかかり、維持管理費も必要となる。どうしても交通事故が多いところには必要かもしれないが、それ以外のところは現状の安全対策を行っていくしかないと考えている。

→【委員】子どもたちが横断歩道ぎりぎりではなく少し下がったところで待つような仕組みやガードレールを作る等、コストをあまりかけなくてもできることはあるのではないか。

→【部会長】ハード面だけでなく、ソフトの面で上手く対応できると良い。

【委員】交通安全対策を行うにあたり、危険箇所のリストアップは出来ているのか。対策の優先順位を付けるため必要である。

→【事務局】各自治会からの要望を受け、確認後優先順位を付けて順次対応している。通学路に関しては、通学路交通安全プログラムにおいて関係者で点検し、リストアップし、順次対応している。保育園、幼稚園についても大津の事故後、危険箇所を点検し、計画書を策定した。

【委員】国道8号バイパス工事に関して、道路ができると三上山の景観が損なわれないか。

→【事務局】工事前にパース図をお示しさせていただいたところ、地域の皆さんからは批判的な意見は出ていない。

→【部会長】景観にも配慮した道路整備ということで意見をいただいた。

4-6 公共交通の利便性の向上

◇委員からの主な意見・質問

【委員】現状・課題に駅前の渋滞緩和についての記述があるが、対策を取組方針に入れていただきたい。また、駅に通じる自転車の専用道路を作るということを検討していただきたい。

→【事務局】駅前の渋滞については、広域の幹線道路の通過交通が要因の一つであると認識している。まずは、国道8号バイパス、大津湖南幹線という大きな2つの幹線道路の整備を進めて通過交通を分散させ、市内の渋滞を解消していくという方針である。その幹線道路にいかに接続し、アクセスをよくしていくのか、後に検討を進める。

【委員】コミュニティバスは市民全体ではなく、交通弱者、特に高齢者の移動手段となっており、5年後の伸び率については、高齢者の推移をみていく必要がある。また、集落を結ぶため、目的地まで時間がかかったり、小さな集落では1日に一人しか乗らないようなところもあったり、従前どおりの運用でずっとするべきかという問題がある。持続可能な公共交通を考えると、乗合いタクシーや他の移送手段の検討も必要ではないか。

→【事務局】デマンドタクシーについては、比較検討を行っているが、メリットデメリットがある。定期的な時間に安心して乗れるという安心感があり、現在はコミュニティバスを根幹に置いている。高齢者等にはタクシーチケットの助成も行っている。

→【部会長】バスの無人運行が実験的に始まっており、あと5年もすれば、ICTやAIの進歩で、これまでと違う運行形態になるように思う。

→【委員】地域によっては乗車人数が少ないので、自動化されたタクシーみたいなものになっていくと思う。10年先、20年先を見越した青写真を計画に載せられないか。

【委員】全体を通じてであるが、関連する市の計画として挙げられているものが、上位計画や下位計画等ばらばらである。統一した方が良いのではないか。

→【事務局】上位計画と下位計画が必ずしも繋がっているわけではないため、難しい。

→【部会長】各計画がどういった取組に関わっているのかといったことが整理されていると分かりやすいのではないか。

4 その他

○施策5の基本計画（素案）については、頂いた意見を踏まえて作成したものを配布させていただいた。意見があれば事務局まで願います。今後部会長と調整し、次の全体会で案をお示しさせていただく。

○9月12日（土）の午前10時から総合計画ワークショップを総合防災センターで開催する。

○総合計画審議会全体会を10月2日（金）午後2時から図書館ホールで開催する。

5 閉会